黒崎羊二氏　連続講座　「住まいから考えるまちづくり」

ー住民目線のコミュニティ再生ー

第７回（４月２１日開催）「まちづくり協議のプロセス」

第7回講座（4/21）は、まちづくり協議の計画～方針、計画協議の課題、計画協議のフレーム、計画協議～合意のフローの順で講義が進みました。何から着手すべきなのか、計画づくりから事業へ進む過程で何が重要なことなのか、既存の計画づくりでは見えてこない盲点が明らかになりました。その上で、事業促進の要件、住宅ストック改善の選択メニューを整理していきました。

今回は、講義報告というよりも、建築とまちづくりにたずさわる読者の皆さんに考えていただきたいポイントを記載しておきたいと思います。

Point

○ 住民（住まい手）の生活要求とは？　公益は私益の複数形になりえるか？

○“話し合いをしましょう”→誰も集まらない現状で、「住民参加のまちづくり」は形骸化し、ほとんど行われていないに等しい。

○「参加しない自由」の選択肢とは？　可能性を探る共同作業がまず必要。

○ 多くの都市マスタープランにあるように、「実現方策」にリアリティがない。

→いつ、どこで、なにを、どのくらい？　整備事業プラグラムが欠けている。

○ 計画の公平性・合理性・公共性とは？辞書に書かれた「公平」（分配）とは相反する！

（↑ちなみに、私はこれを理解するのに３年かかりました。報告者川田）

参加者意見

少人数なので、たくさん発言できます。日常業務での疑問を共有していきましょう。

○県営住宅の申込み、空き戸数と間取りしか分からず、階数も日当たりも不明。これでいいの？

○不特定多数の人が使う場所（公共の場）をどう考えるか。どこかで妥協しなければならない。
まちづくりの理念に賛同するものの、少数の反対に対してどうやって計画を詰めていくのか。

→（黒崎）まさに総論賛成・各論反対。多数決の論理を民主主義の基本におくのは研究者・専門家の怠慢。少数意見を汲み取り対応することは多数者の責務。基本となるのは「個」であるのに、それを切り捨てるのは全体主義。豊かに・自由に生きることに反対する人はいない。

○ 設計者として、敷地があって住む人がいることが条件。敷地外のことは枠を超えて別のものと思っていたが、そうでないことを徐々に認識し、まちを見直さざるを得なくなってきた。

（黒崎）「建築とまちづくり」4月号の記事にふれて・・・西山夘三さんの「ノン・ルーチン」を日常化することが住まいとまちにかかわる現在の職能的課題。5 つの論文のつながりを具体的に詰めたい。

５月以降も開催場所は「恵比寿」です

「まちづくり協議のプロセス」

日時：２０１５年５月１９日（火）１９時～２１時

会場：まちづくり研究所（渋谷区恵比寿 1-13-6　第２伊藤ビル 503）

参加費：4,000 円（4 講座毎チケット制）（新建会員及び学生は 2,000 円／4 講座毎）
※１講座のみ受講も承ります。その際は、1200 円（600 円）／1 講座　です。

連絡先 tel：03-5423-3470（まちづくり研究所　川田・藤巻）